

令和5年度 英語教育特別研究校報告書

大塚中学校区

1 学校の課題

- ・ 令和4年度に実施したインタビューテストの結果から、資料について英語で読んだり、聞いたりしたことに対して英語で自分の思いや考えを伝える力が十分ではない。
- ・ A L Tを活用した「思考力・判断力・表現力」の育成を重視した日頃の授業やパフォーマンステストなどの成果が見られたが、「知識・技能」面に誤りが多く、話したり書いたりする際の英文の正確さに課題がある。

2 研究主題

～「きく・つなぐ・もどす」の効果的な中間指導の実践によるコミュニケーション能力の育成～

3 取組内容

(1) 英語授業の充実

① A L Tの活用

隔週でA L Tを入れ替えて時間割を組むことで、2週間にわたって2名の両A L Tが全クラスで授業をすることを可能とした。2名のA L Tと授業内容を共有することで教員間での指導について共通認識を持った上で授業を実施することにつながった。

A L Tとのティームティーチングで授業を行うことで、英語を使う「目的や場面、状況」の設定がしやすくなり、より効果的な言語活動となった。A L Tがいることで、より「目的や場面、状況」が現実的になる上、英語使用の必然性が高まり、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができた。また、生徒のアウトプット内の文法や語彙のミスがコミュニケーション上支障のあるミスかどうかの判断がしやすく、知識及び技能における正確性の育成にも大いに貢献した。

② 英語力の検証

インタビューテスト（2学年生徒対象）、標準学力調査筆記テスト（2学年生徒対象）、標準学力調査スピーキングテスト（2学年生徒対象）、生徒アンケート（2学年生徒対象）、をそれぞれ年2回ずつ、英検 IBA（全学年対象）を年1回行った

③ 授業改善

- ・ 「思考力・判断力・表現力」育成のための「目的・場面・状況」を設定した言語活動の実施。
- ・ 単元ゴールの設定・全単元でパフォーマンステストの実施

(2) 英語を使う場の多様化

- ① A L Tが運営する放課後英語教室 O.E.R.の開室（毎週水曜日）
- ② 昼食英語放送 Ozuka English Broadcast “Ozuka 763FM” の実施（毎週金曜日）
- ③ 伝える HIROSHIMA プロジェクトへの参加
- ④ E-Day Camp への参加
- ⑤ 第26回舟入高等学校スピーチコンテストへの参加
- ⑥ 留学生交流イベント “Mochi Making Event”の実施

(3) 学習支援 (ICT 活用)

- ① タブレットを活用した冬休み課題の実施 (Google Classroom)
- ② タブレットの録画、録音機能を活用した生徒の話す活動によるアウトプットの修正

(4) 小中連携

- ① 小中7年間の目標設定
 目指すべき子どもの資質・能力を小・中学校で共有し、児童生徒の実態と照らし合わせて、4技能5領域それぞれの目標を見直した。
- ② 中学校のALTと英語科教員による小学生対象の授業
 1月にALTが小学5～6年生全クラスを対象にパフォーマンステストを実施し、2月には中学校JTEとALTが小学6年生全クラスを対象に出前授業を行った。

4 検証結果

<中学校>

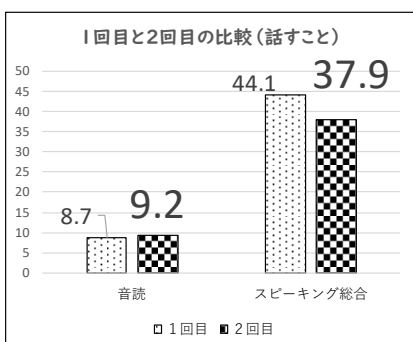
(1) インタビューテスト (2学年対象: 6月・11月実施)

	Reading section	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	total score
配点	5	5	5	5	5	5	30
R5 5月	3.1	2.3	3.3	2.7	3.3	3.3	15.9
R5 11月	4.0	3.7	3.8	3.2	4.2	4.4	20.7

(2) 標準学力調査筆記テスト (2学年対象: 6月、12月実施)

		教科の正答率	領域別正答率			観点別正答率		
			聞くこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
R5 6月	目標値	50.3	60.6	53.2	37.0	56.3	41.2	31.0
	本校 平均正答率	60.4	65.4	61.5	54.2	65.8	51.9	48.1
	市町村 平均正答率	55.1	60.0	57.6	47.2	61.4	45.3	37.3
	全国 平均正答率	46.1	57.4	50.7	29.6	54.3	33.5	17.0
R5 12月	目標値	50.6	57.8	54.3	37.8	57.8	43.4	40.0
	本校 平均正答率	62.7	70.4	64.6	52.0	68.3	57.0	56.9
	市町村 平均正答率	59.4	66.3	61.3	49.7	66.0	52.9	52.8
	全国 平均正答率	50.1	58.5	54.4	34.8	58.1	42.0	36.5

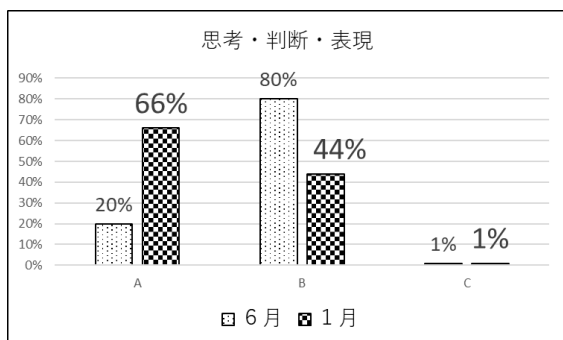
(2) 標準学力調査スピーキングテスト (2学年対象: 6月、12月実施)



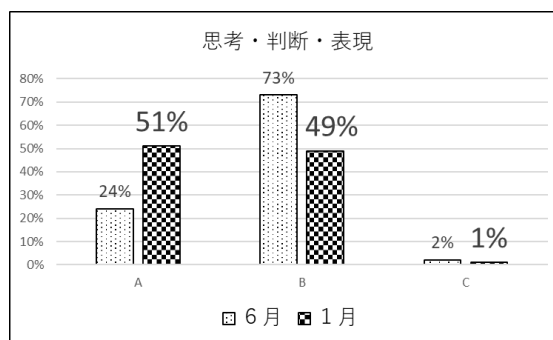
リーディング(得点)			スピーキング(%)							
発音 (5点満点)	なめらかさ (5点満点)	完成度 (5点満点)	2 質問に英語で答える問題					3 やり取りに英語で応じる問題	4 与えられたテーマについて考え、英語で応じる問題	
			(1)時刻を問われる問題	(2)状態を問われる問題	(3)数を問われる問題	(4)場所を問われる問題	(5)どんな行動をしたのか問われる問題			
2.2	2.6	3.9	56.2	25.7	24.3	6.2	48.1	69.5	78.6	
2.4	3.1	3.8	6.6	79.1	48.8	7.1	9.5	25.1	88.6	

<小学校>

(1) インタビューテスト (5・6 学年対象：6・1 月実施) ※ALTと1対1で、1分間のインタビューを実施
 (第五学年) 6月 n=318 (人) 1月 n=294 (人) (第六学年) 6月 n=282 (人) 1月 n=235 (人)



	A	B	C
6月	20%	80%	1%
1月	66%	44%	1%



	A	B	C
6月	24%	73%	2%
1月	51%	49%	1%

(2) 児童アンケート (5・6 学年対象：6・2 月実施)

- ①英語の学習は好きです。
- ②英語の授業は楽しいです。
- ③英語の授業では、友達や先生と進んで英語でやり取りしています。
- ④英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。
- ⑤学習した英語を使ってみたいと思います。
- ⑥外国の人と話をしてみたいと思います。
- ⑦自分の言いたいことを英語でどう言うか調べてみたいです。
- ⑧英語の授業を通して、友達と仲良くなったり、友達のことを知ることができたりしました。
- ⑨日本語と英語の違いや共通点を見つけるなど、ことばのしくみやきまりに興味をもつようになりました。
- ⑩4月に比べて英語の力が伸びていると感じます。

【大塚小学校】

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	51%	39%	6%	4%
②	62%	30%	6%	2%
③	51%	39%	9%	1%
④	44%	42%	12%	2%
⑤	73%	21%	4%	2%
⑥	55%	27%	13%	5%
⑦	49%	37%	9%	4%
⑧	51%	33%	12%	4%
⑨	40%	41%	15%	4%

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	51%	33%	13%	4%
②	58%	31%	8%	3%
③	52%	41%	6%	1%
④	56%	33%	11%	1%
⑤	67%	22%	9%	1%
⑥	47%	29%	16%	8%
⑦	49%	30%	16%	4%
⑧	48%	35%	14%	3%
⑨	41%	38%	17%	4%
⑩	79%	17%	4%	0%

【伴南小学校】

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	40%	40%	15%	4%
②	54%	33%	11%	3%
③	39%	40%	18%	4%
④	37%	37%	20%	6%
⑤	58%	27%	11%	3%
⑥	51%	25%	16%	8%
⑦	43%	33%	19%	4%
⑧	39%	36%	16%	9%
⑨	36%	34%	23%	7%

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	38%	42%	14%	6%
②	41%	43%	11%	5%
③	33%	44%	21%	3%
④	34%	44%	19%	2%
⑤	51%	36%	11%	3%
⑥	43%	32%	16%	8%
⑦	45%	34%	16%	4%
⑧	36%	38%	20%	6%
⑨	32%	32%	28%	8%
⑩	77%	16%	4%	3%

【石内北小学校】

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	52%	39%	7%	2%
②	70%	25%	4%	1%
③	45%	44%	10%	2%
④	40%	43%	15%	2%
⑤	76%	17%	6%	1%
⑥	50%	31%	13%	6%
⑦	47%	39%	10%	4%
⑧	55%	32%	10%	3%
⑨	52%	34%	11%	3%

	4 よく あてはまる	3 やや あてはまる	2 あまり あてはまる ない	1 まったく あてはまる ない
①	44%	44%	9%	4%
②	58%	32%	6%	4%
③	33%	48%	19%	1%
④	37%	46%	16%	1%
⑤	61%	23%	12%	4%
⑥	44%	30%	19%	7%
⑦	49%	33%	13%	5%
⑧	40%	47%	10%	3%
⑨	43%	36%	14%	7%
⑩	65%	25%	6%	4%

5 研究成果

(1) 成果と課題

- ① インタビューテストの結果から
 <中学校>
- ◎ 11月の第2回では、全項目において、第1回から得点が向上した。特に、第1回で最も低いスコアであったNo1 “Why is bird-watching a popular hobby for many people?” では1.4ポイント向上し、大きな変容が見られた。また、第1回で2番目に低いスコアとなった。第2回の正答率67.6%は第1回より30.3%高く、大きく上昇した。第1回の結果から、課題となっている点の振り返りを行ったことや、帯活動において、「1 minute monologue」など、ある程度まとまりのある英文を話し、それに基づいて聞き手は質問する活動をしてきた結果とも言える。
- ▲ No3の正答率は35%となっており、第1回の23%から12%上昇しているものの、全体の約7割が正答となっていない。「be going to 動詞の原形」の文法事項を正しく使って話す正確性に課題があると考えられる。

<小学校>

◎ 5年生、6年生とも1回目と2回目を比較すると、「十分満足できる」と評価できる児童が増えた。児童のコミュニケーション能力を向上させることを目標に、相手意識をもった授業づくりを進め、児童が着実に英語力をつけてきた成果であると考えられる。

② 標準学力調査の結果から

<中学校>

◎ 全項目において全国平均正答率を上回った。特に、領域別正答率の「書くこと」において、全国平均(第1回+24.6ポイント、第2回+17.2ポイント)との差が大きかった。また、観点別正答率の「思考・判断・表現」においても、全国平均正答率(第1回+18.4ポイント、第2回+15ポイント)を大きく上回った。

▲ 「話すこと」や「書くこと」の正確性が求められるアウトプットにおいて課題がある。コミュニケーション上支障をきたさない英語表現ができるよう、指導改善を図る必要がある。

③ 児童アンケートの結果から

<小学校>

◎ 「英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。」という項目について、80%以上の児童が肯定的に回答しており、相手意識をもって自分の思いを相手に伝える授業づくりを進めてきた成果であると考えられる。また、「外国の人と話をしてみたいと思います。」という項目においては、肯定的な意見を回答した児童が昨年度に比べて増えており、各校に週1日ずつ常駐しているALTの児童への積極的な関わりや中学校ALTとの交流、留学生との交流会などが肯定的評価につながったと考えられる。

▲ 他と比べると「英語の授業を通して、友達と仲良くなったり、友達のことを知ることができたりしました。」という項目において、肯定的評価の割合が高くないことが課題の一つとして挙げられる。Small Talk で友達と交流する場面を増やしたり、リアクションの幅を広げる指導をしたりするなど、話し手が相手に理解してもらえたと実感できるような手立てを考えていきたい。

(2) 今後の取組

【英語授業の充実】

今年度実施した様々な調査テストの分析により、前述の成果と課題が明らかになった。その成果は、ALTを活用して行ってきた取組が要因の一つである。授業やパフォーマンステストにおけるALT活用を継続して行っていきたい。また、今年度の課題となった「正確性」を高めるためには、これまでの授業の見直しと、より一層の授業改善と充実が求められる。「思考力・判断力・表現力」を育成する言語活動を行うなかで、「知識及び技能」を定着させる方法を模索していきたい。コミュニケーション上支障のないアウトプットへと修正していくために、その基準やゴールを教科内で確認、共有していきたい。

【英語を使う場の多様化】

今年度新たに実施した昼食英語放送“Ozuka 763FM”は、放課後英語教室“O.E.R.”に続いて、授業外でのALT活用実践の一つとなった。英語を使う場の多様化のため、“O.E.R.”“Ozuka 763FM”以外にも、伝えるHIROSHIMAプロジェクトや留学生交流イベントなど、英語使用場面を多様に設けることができたことは、成果の一つとしてあげられる。しかし、その取組の多くは、多様な英語使用を経験できるのが主に希望者などの一部の生徒に限定されてしまう点が課題であろう。授業外においても、全校生徒が効果や有用性を感じられる、より効果的なALT活用を実践していきたい。

【学習支援 (ICT活用)】

ミライシードやGoogle Classroomをはじめ、デジタル教材をより一層授業で活用していく。また、正確性を高めるツールとして、タブレットの録音、録画機能で、生徒が話す活動を通してアウトプットしたものを記録し、それを内容面、言語面での見直しや修正に活用することを学年間わず、実践していきたい。デジタル教科書の活用も今後の取組の課題となると考えている。

大塚中学校における取組等の詳細はこちら



大塚中学校区の小学校における取組等の詳細はこちら

